

株主メモ MEMO

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fujipream.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

ご注意

- 1 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- 3 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

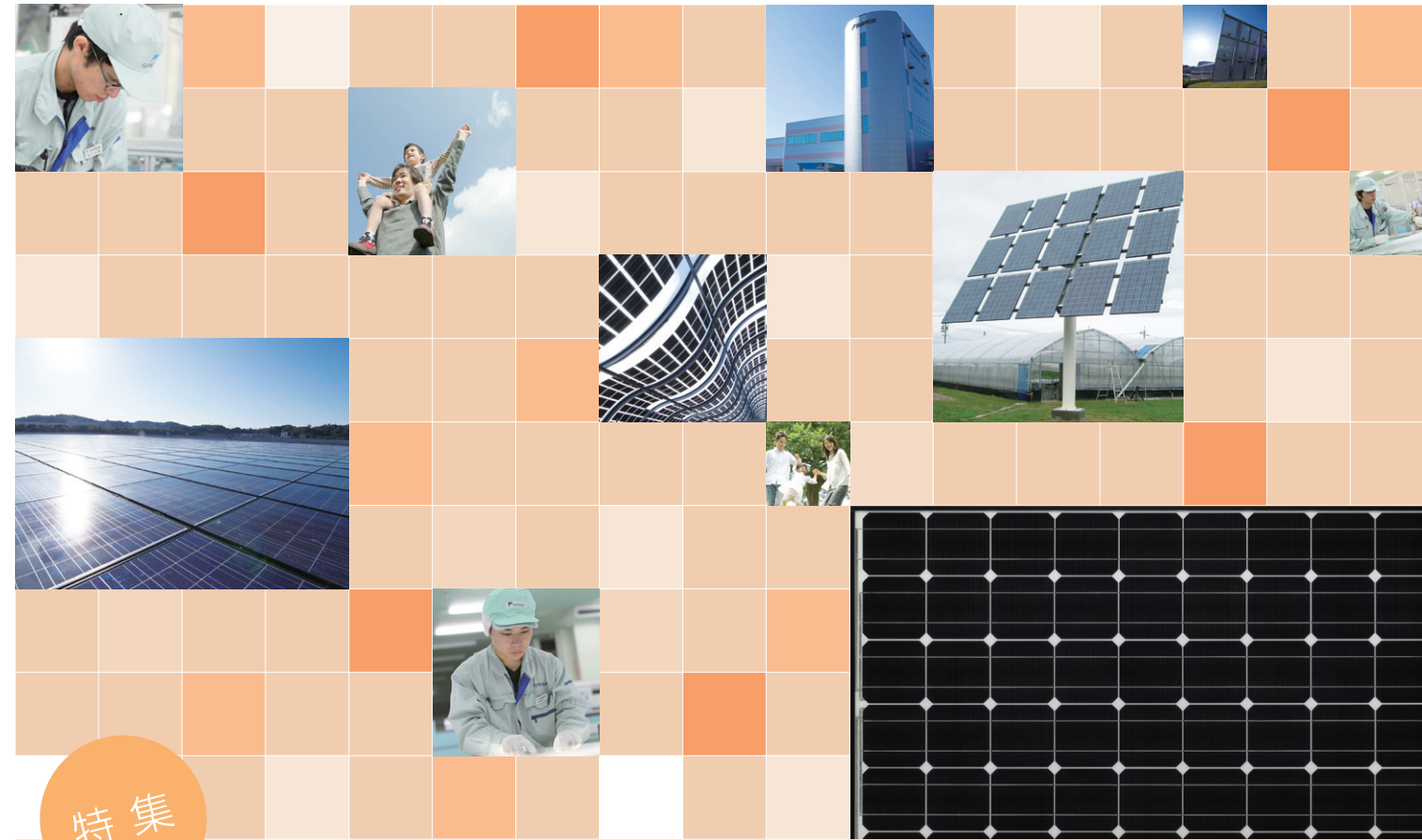
フジプレアムと社会を結ぶ情報誌

PRE [プレ]

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。

FUJIPREAM
JASDAQ 証券コード: 4237

フジプレアムと
社会を結ぶ情報誌【プレ】
PRE
VOL.24
2011.4/1 ~ 2011.9/30
第2四半期報告書



特集

常務取締役 ソーラープロセス事業部 事業部長 澁谷が語る開発秘話

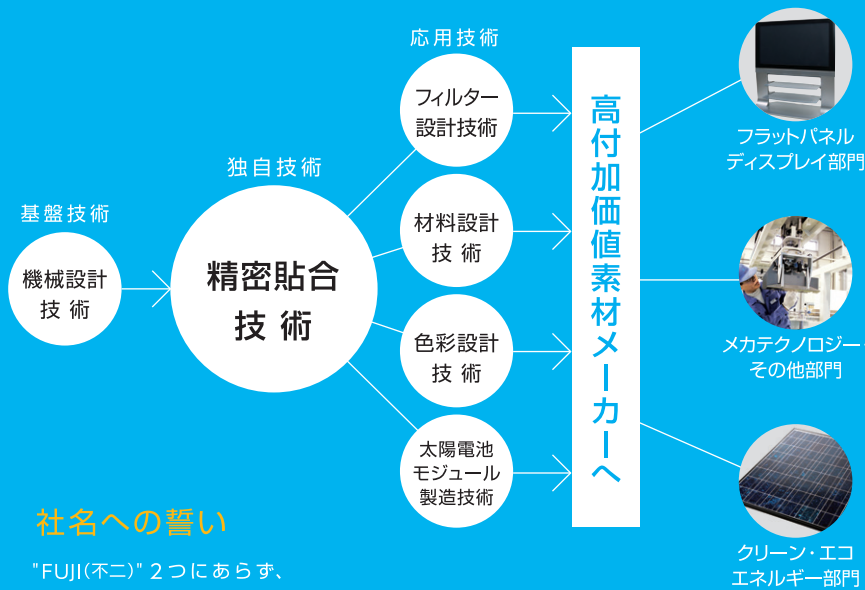
太陽光発電事業、更なる成長の切り札。
フジプレアム 超軽量太陽電池モジュール「希」完成。

不可能への挑戦

フジプレミアムは「不可能への挑戦」を掲げ、
未来を切り開く研究開発型企业です。

経営ビジョン

フジプレミアムは、精密貼合技術を活かし、
新たな価値を創造する素材メーカーを目指します。



社名への誓い

"FUJI(不二)" 2つにあらず、
"pre" 先駆けて、"am" 存在する企業でありたいと、
常に「不可能への挑戦」を心がけています。

経営理念

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大いなる「財」なり
自然は大いなる「恵」なり。
全てに対して大いなる「感謝」

高度情報化
社会

地球環境
共生社会



光都工場

光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

厳しい市況下にあっても「不可能への挑戦」の精神を忘れず、
フジプレミアムはスピードと実行力を武器に、さらなる信頼の構築に努めます。

株主・投資家の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、フジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第30期（平成24年3月期）第2四半期報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

本年度上期において、当社を取り巻く事業環境は、欧米における金融不安の拡大や急激な円高の進行等の経済状況により大きな打撃を受けることとなりました。ただ、常に困難に向かっていく「不可能への挑戦者」の立場を基本とし、創業者が30年にわたり耕し、実りを付けてきた土壌を基盤に、次の30年でさらに輝く実りを得るため、当社独自の超精密貼合技術を世界が認める“ワザ”へと飛躍させようと日々戦っております。

この情報社会の中では、常に新たな商品が求められ、その探求熱は尽きることはありません。そんなまだ見ぬ商品を実現するために、当社の技術が欠かせないと多くのパートナー様からご指名を受け、その信頼に対していち早く応えていく。事業のスピードアップこそが、今最も求められていることだと考えています。創業者たちの実績、経験に、新体制ならではのスピード力、実行力を重ね合わせ、最強の事業集団のプロフェッショナルとして勝ち進んでいく覚悟であることをお示ししたいと思います。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本倫長



太陽光発電事業、更なる成長の切り札。 フジプレミアム 超軽量太陽電池モジュール「希」完成。

光都PV工場の高効率生産ラインの新設や製販一体による販売体制の強化など、社内でも大きな期待を寄せているクリーン・エコエネルギー部門の太陽光発電事業。フジプレミアムは、この度、その太陽光発電事業の更なる成長の鍵を握る、超軽量太陽電池モジュール「希」の開発に成功しました。そこで今回は、開発のキーマンであるソーラープロセス事業部の事業部長・澁谷による開発秘話をお届けします。



常務取締役
ソーラープロセス事業部
事業部長 澁谷 尚

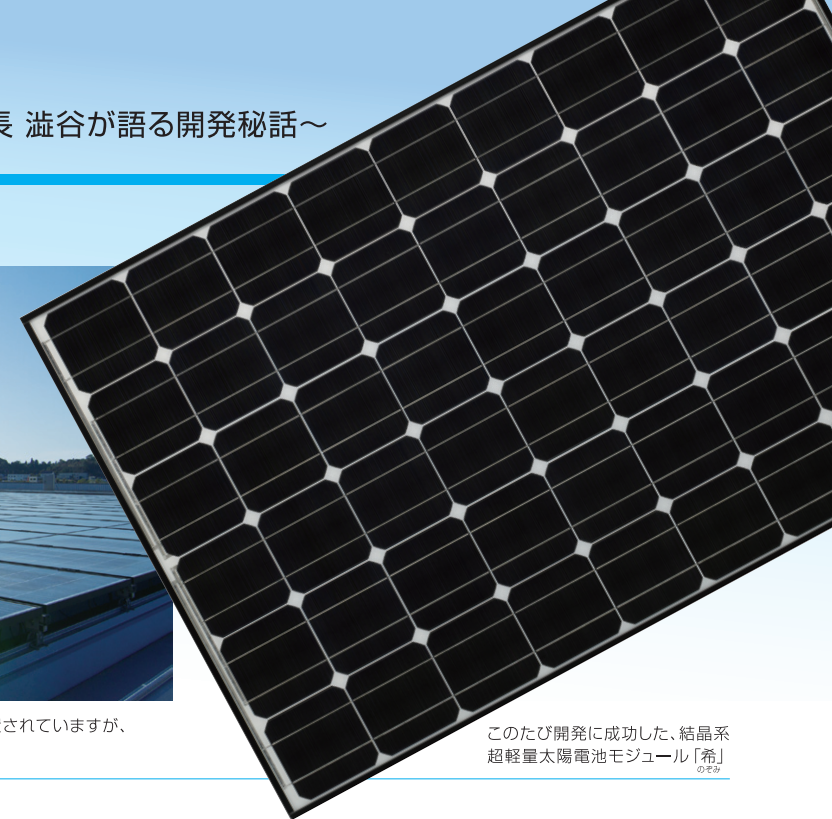
「取り付けられない」を解決するために。 急務となった“超”軽量化のミッション。

いよいよ超軽量太陽電池モジュール「希」を販売できる体制が整いました。この超軽量太陽電池モジュール「希」は、従来の太陽電池モジュールと比較して同じ標準サイズでも重量は約半分。17kgだった総重量を約8kgまで軽量化することに成功しました。では、はじめにこの超軽量太陽電池モジュール「希」を開発することになった経緯からお話いたします。

2009(平成21)年から政府主導のもとスクール・ニューディール計画がスタートしました。この計画は当初全国12,000校に太陽光発電設備を設置しようというものでしたが、現在までに設置されたのは3,000校ほど。その理由の1つは、モジュールの



すでに光都PV工場の屋上部分にもさまざまな太陽光発電システムが設置されていますが、発電効率、耐久性ともに格段に向上しています。



このたび開発に成功した、結晶系超軽量太陽電池モジュール「希」

重量にありました。屋根の荷重に制限が設けられているため、従来のモジュールでは設置できなかったのです。そのため、補助金のほとんどが耐震工事に使われてしまいました。また、学校以外に工場でも設置を検討されている方も多数おられたのですが、こちらも荷重制限があり、古い工場では設置できないというケースがありました。そこで、超軽量太陽電池モジュールの開発が急務となったのです。

薄膜系ではなく結晶系で、しかも軽量。 その難題に挑み、世界初の製品が誕生。

実は、これまでも他メーカーから薄膜系で同程度の重さのモジュールは発売されていました。しかし、薄膜系のため発電効率は低く、結晶系と比較して約半分の出力しか確保で

きていませんでした。つまり、結晶系と同等の出力を確保するには2倍の設置面積が必要だということです。これではまったく意味がありません。そこで私たちは、結晶系のモジュールで重量を半分にすることを開発の目標に掲げたのです。

まず私たちはモジュールの中で重量の大半を占めているガラスに着目しました。そのガラスを従来のものよりも薄くすることで軽さを確保しようと考えたのです。しかし、当然ガラスが薄くなると強度が下がります。十分な強度を確保するのに非常に苦労しました。最終的に強さと薄さを兼ね備えたガラスをメーカーと共同で開発し、本格的な着手から半年ほどで完成することができました。結晶系でここまで軽量のモジュールを開発できたのは、世界でもフジプレミアムが初めてとなります。

(次頁へつづく)

超軽量太陽電池モジュール「**希**」誕生インタビュー

～常務取締役 ソーラープロセス事業部 事業部長 澁谷が語る開発秘話～

軽量化から波及するさまざまな可能性。
国内だけでなく、すでに海外からも注目。

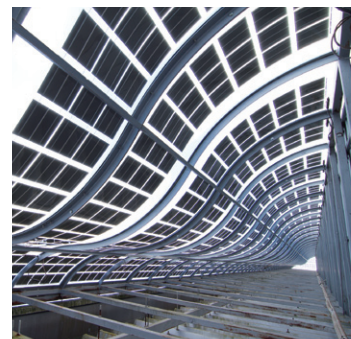
火災試験など安全面での認証試験に申請中で、生産効率を高めた光都PV工場の新ラインでの生産も決定。すでに量産体制にある超軽量太陽電池モジュールですが、その反響は私たちが想像していた以上に大きなものでした。軽量化したことで運搬も一人で行えるようになり、結果的に工期の短縮や周辺機器が簡略され、トータルで見ればコスト削減につながることで、さらには学校や工場だけでなく、築10年以上経過し、屋根の強度に不安がある一般家庭も販売先として期待されることから、国内はもちろん、ヨーロッパをはじめ海外からも問い合わせが相次いでいます。

来年に入ると、再生エネルギー法案もより具体性が増し、受注が本格化するはず。私たちも一日も早く、光都PV工場の新ラインを超軽量太陽電池モジュールの生産でフル稼働させたいと大きな期待を寄せています。

立ち止まることなく、応用を視野に。
太陽光発電分野の更なる成長を目指す。

また、早くも超軽量太陽電池モジュールの応用を視野に入れており、例えばその薄さを活かしてモジュール自体を湾曲させ、これまで難しかったカーブ形状のカーポートの屋根や、柱状のものに巻き付けるように設置できるように改良することも考えています。こうした可能性が広がれば、中国の低価格モジュールにも充分対抗できる競争力を発揮できる

学校、工場、一般家庭はもちろん、あらゆる場所で活躍できる太陽電池モジュールに



以前より、複雑な形状に対応するモジュール開発を行ってきたフジプレアム。今後は超軽量太陽電池モジュールでも、同様の開発を視野に入れています。

休耕地ではなく、農業用地に設置できるフジプレアムのトラッキングシステム。通常どおり作物を育てながら自家発電を行うことができ、土地の有効活用につながります。



「太陽光発電のセミナーで超軽量太陽電池モジュールについて触れたのですが、セミナー終了後多くの参加者に囲まれ、質問攻めに合いました。」と語る澁谷。

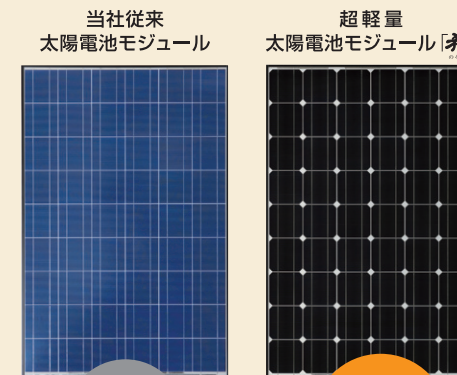
と確信しています。

このように、欧州の経済危機などの影響により、太陽光発電分野も厳しさを増す中、私たちフジプレアムは次代を見据えた努力を続けています。震災によるエネルギー問題で持ち上がっているメガソーラーの計画についても、独自のトラッキングシステムを活用した計画を積極的に提案しています。

また、それとは別に、今回「CSR最・前・線」でもご紹介しているトラッキングシステムを、震災で被害を受けた被災地に寄付するなど、復興支援にも取り組んでいます。そうした点でも社会の期待に応え続けることができれば、と考えています。ぜひ、今後も、フジプレアムの太陽光発電事業にご注目ください。

太陽電池モジュール総重量比較

サイズ 1,482 × 985 × 35 mm



17kg → 約8kg
1/2 以下の重量

生産効率比較(光都PV工場生産ライン)



従来 12メガワット/年 → 新生産ライン 100メガワット/年

※将来的には180メガワット/年まで増産可能な設計。



次世代農業経営を 太陽光発電システムで支える

太陽光発電システム編

追尾型太陽光発電システム(トラッキングシステム)を、 島根県大田市に寄贈

11月6日、フジプレミアムは、追尾型太陽光発電システム(トラッキングシステム)を、島根県大田市に寄贈いたしました。ビニールハウス内で高設ベッドを利用したイチゴの水耕栽培を行っており、培地加温用灯油ボイラー等の固定費を太陽光発電システムで軽減できないか検討しておられた「わなか農園」に設置されることとなりました。

次世代農業経営のモデル事業として協定を結び、今後、農業経営に寄与する効果を検証していただきます。また、自然エネルギー活用の普及・促進のための宣伝・周知活動を行っていただきます。

協定書の調印式当日は、NHKや地元ケーブルテレビ、朝日、毎日、読売新聞社が取材に訪れ、注目度の高さを伺い知ることができました。今後もフジプレミアムは、こうした取組みを積極的に推進していきます。



調印式

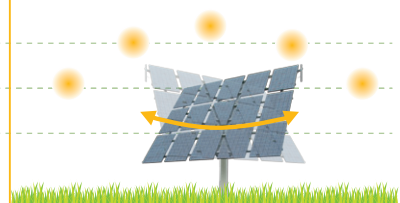
寄贈物件の仕様

- 最大出力..... 3.075kw
(205wのモジュールが15枚)
- 最大高さ..... 6,970mm(約7m)
- 水平可動範囲... 直径7,800mm(約8m)
- 全体重量..... 1,120kg(基礎含まず)

追尾型太陽光発電システム (トラッキングシステム)の特長



取り付けられた太陽光発電パネルが自動で太陽の方角を追尾し、高い発電効率を実現します。地面設置スペースが少なく済むため、耕作物を犠牲にすることなく、農地の有効活用につながります。



トピックス Topics

TOPICS 01 証券会社、アナリストを対象に 第29期フジプレミアム決算説明会を開催

開催日：平成23年6月14日(火) 15:00～
場 所：フジプレミアム本社4階 会議室

多くの証券会社、証券アナリストの皆様を前に、社長自らマイクを握り、第29期の決算内容の説明を行いました。



2011 6 June 7 8 9 10 October 11 12 December

TOPICS 03 太陽光発電にまつわる環境セミナーに参加

10月24日(月)にテクノポート岡山にて、岡山県中小企業団体中央会・財)岡山県産業振興財団主催の太陽光発電に焦点を絞った環境セミナーが開催されました。当社は「太陽光発電の最新技術」というテーマのもと、ソーラープロセス事業部の事業部長である澁谷が講師として参加し、超軽量モジュールの話題にも触れました。講演後、さっそくその場で問い合わせが相次ぐなど、市場の関心の高さを実感できました。



澁谷による講演

セミナー会場の様子

TOPICS 02 毎年恒例の秋祭りに当社従業員も参加

毎年行われている地域の秋祭りに参加。10月8日(土)に実法寺北、10月9日(日)に実法寺南において、当社従業員も御神輿を担がせていただきました。



TOPICS 04 「PV Japan 2011」に出展

開催日：平成23年12月5日(月)～7日(水)
場 所：幕張メッセ

12月5日(月)～7日(水)の3日間、JPEA(太陽光発電協会)とSEMI(電子デバイス製造装置・材料産業の工業会)が主催する太陽光発電の一大イベント「PV Japan 2011」(幕張メッセ)に当社も出展。ブースでは製品の実機を展示。

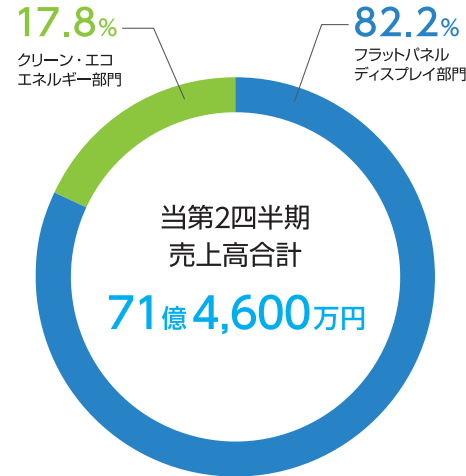


Segment Information

経常利益6億2,200万円確保

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興に向けた回復が見られるものの、原発事故に伴う電力供給の問題、欧米における金融不安の拡大と急激な円高の進行による企業収益悪化の懸念もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループの主力事業であるフラットパネルディスプレイ部門におきましては、エコポイントの駆込み需要の反動による急激な落込みに加え、円高による輸出環境の悪化により、厳しい結果となりました。また、クリーン・エコエネルギー部門におきましては、国内向け住宅用及び産業用の太陽光発電システムの販売が堅調に推移したものの、海外メーカーによる価格攻勢の影響から前年同四半期を割り込む結果となりました。この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高7,146百万円（前年同四半期比56.6%減）となり、損益に関しましては、このような市場の変化を見通し、コスト削減に取り組んだ結果、営業利益670百万円（同35.4%減）、経常利益622百万円（同39.9%減）となりました。また、第1四半期連結会計期間において、役員退職慰労金960百万円を特別損失として計上したことにより、四半期純損失267百万円（前年同四半期は572百万円の純利益）となりました。



フラットパネルディスプレイ部門



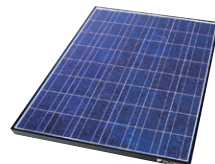
第30期第2四半期売上高
58億7,600万円

営業利益6億9,900万円確保

フラットパネルディスプレイ部門の国内市場は、地上デジタル放送への完全移行後の想定を上回る落込みがありました。また、海外市場において、新興国需要の伸びに鈍化がみられたことに加え、急激な円高の影響を受けたパネルメーカーの生産調整により、前年同四半期を大きく下回りました。

このような状況の中、当社の独自技術を活かし、今後、成長が期待できる大型のタッチパネルやタブレットPC及び新方式の3D液晶テレビに必要な超精密貼合等に取り組んでいます。また、生産拠点の集約、生産体制の最適化等に対応し、経費削減も徹底、経営体質の強化に取り組まれました。この結果、売上高5,876百万円（前年同四半期比60.8%減）、営業利益699百万円（同26.7%減）となりました。

クリーン・エコエネルギー部門



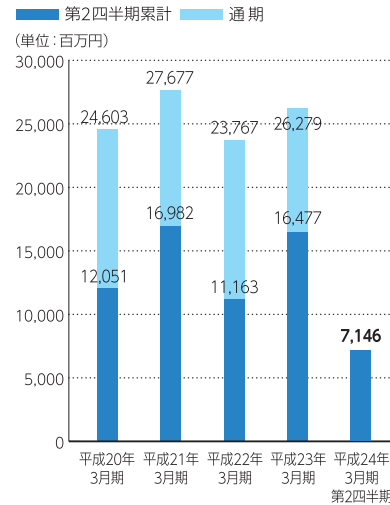
第30期第2四半期売上高
12億7,000万円

売上高前年比15.0%減

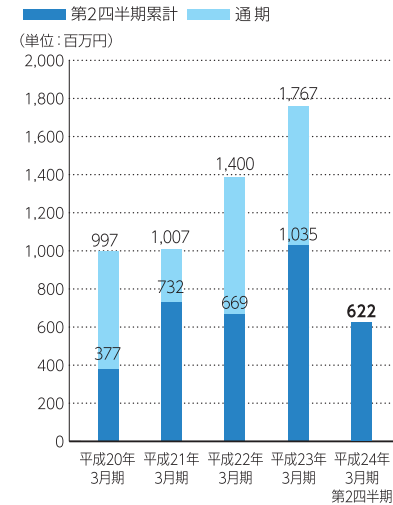
太陽電池の国内市場は、国による補助金制度や電力会社による余剰電力の買取り制度に加え、原発事故に伴う省エネ意識の高まりを背景に好調に拡大いたしました。また、再生可能エネルギー特別措置法の成立により、電力の全量買取り制度の導入が決定される等、更なる市場の拡大が期待されるものの、低価格化を牽引する海外メーカーの攻勢により、市場環境は厳しくなると予想されます。当部門におきましては、国内の住宅用及び産業用の太陽光発電システムの販売が堅調に推移したものの、価格下落の影響から前年同四半期を割り込むこととなりました。この結果、売上高1,270百万円（前年同四半期比15.0%減）、営業損失47百万円（前年同四半期は62百万円の営業利益）となりました。

Financial Highlight

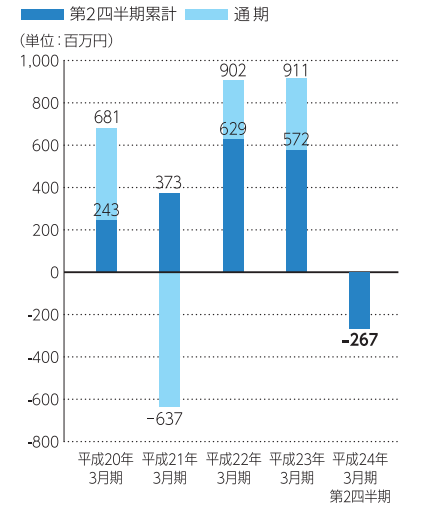
売上高



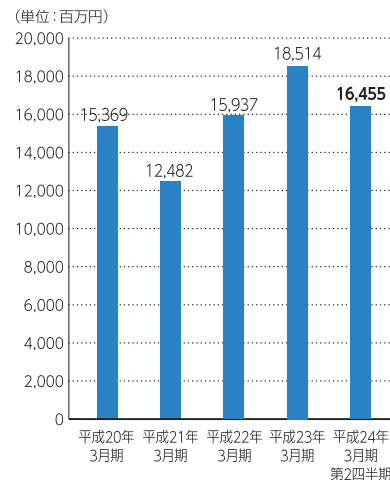
経常利益



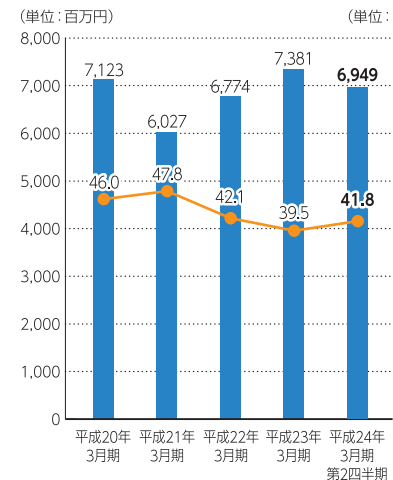
純利益



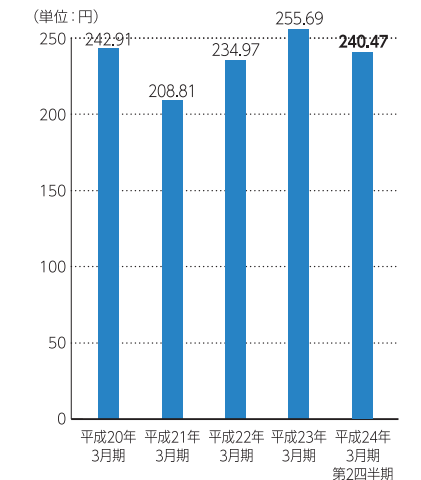
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



第2四半期 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成23年3月31日)
流動資産	8,801,499	10,945,289
現金及び預金	5,253,523	6,341,532
受取手形及び売掛金	2,390,550	3,253,824
商品及び製品	432,313	355,353
仕掛品	216,952	278,078
原材料及び貯蔵品	459,875	559,114
その他	52,474	178,311
貸倒引当金	△4,191	△20,924
固定資産	7,653,755	7,568,880
有形固定資産	7,029,305	7,239,269
無形固定資産	28,503	31,612
投資その他の資産	595,946	297,998
資産合計	16,455,255	18,514,170

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成23年3月31日)
流動負債	4,471,267	6,030,745
支払手形及び買掛金	1,212,270	2,187,290
短期借入金	950,000	950,000
1年内返済予定の長期借入金	1,426,306	1,739,436
未払法人税等	214,707	432,690
賞与引当金	21,519	20,990
その他	646,464	700,338
固定負債	5,034,783	5,102,049
長期借入金	3,826,547	4,539,385
退職給付引当金	4,885	10,043
その他	1,203,350	552,620
負債合計	9,506,050	11,132,794
株主資本	6,880,785	7,319,354
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	3,303,852	3,742,421
自己株式	△863,878	△863,878
その他の包括利益累計額	△9,232	△12,996
少数株主持分	77,651	75,017
純資産合計	6,949,204	7,381,375
負債純資産合計	16,455,255	18,514,170

第2四半期 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)
売上高	7,146,122	16,477,620
売上原価	5,858,541	14,864,854
売上総利益	1,287,581	1,612,765
販売費及び一般管理費	616,739	575,016
営業利益	670,842	1,037,748
営業外収益	6,544	60,605
営業外費用	54,823	62,631
経常利益	622,563	1,035,722
特別利益	1,100	206
特別損失	960,068	119,375
税金等調整前四半期純損益	△336,405	916,553
法人税、住民税及び事業税	228,527	341,867
法人税等調整額	△300,448	△737
少数株主損益調整前 四半期純損益	△264,484	575,423
少数株主利益	2,633	2,693
四半期純損益	△267,118	572,730

第2四半期 連結包括利益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)
少数株主損益調整前 四半期純損益	△264,484	575,423
その他の包括利益	3,764	△16,004
その他有価証券評価差額金	△2,500	△1,663
為替換算調整勘定	6,264	△14,341
四半期包括利益	△260,720	559,418

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	400,628	535,717
投資活動による キャッシュ・フロー	△64,739	△641,784
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,426,111	1,253,838
現金及び現金同等物に係る 換算差額	2,213	△4,507
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△1,088,008	1,143,264
現金及び現金同等物の 期首残高	6,291,532	3,795,683
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,203,523	4,938,947

Profile

会社概要

(平成23年9月30日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation(英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役会長 松本實藏 代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	PDP用光学フィルター関連事業 光学製品関連事業 太陽光発電関連事業 他
従業員数	349名(連結・臨時雇用含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京オフィス
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立:平成15年9月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行／みずほ銀行

取締役及び監査役

(平成23年9月30日現在)

代表取締役会長	松本 實藏
代表取締役社長	松本 倫長
専務取締役	小河 昌之
常務取締役	澁谷 尚
常勤監査役	松本 毅(社外)
監査役	藤田 和也
監査役	片岡 智彦
監査役	木村 裕史(社外)

株式の分布状況

(平成23年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	5,091名

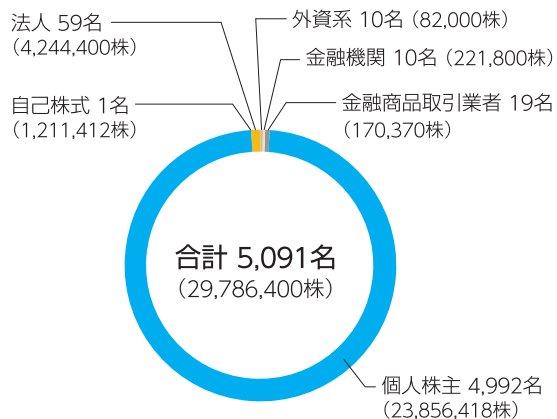
大株主の状況

(平成23年9月30日現在)

松本 實藏	13,130,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,412株
旭硝子株式会社	936,000株
リンテック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本 春代	360,000株
松本 守雄	330,000株

株式分布状況

(平成23年9月30日現在)



HARIMA - TAMBOU

播磨探訪

フジプレミアム本社のある姫路界隈では今、空前のB級グルメブーム。この秋も全国のB級グルメが集まる一大イベントが盛大な盛り上がりを見せました。それと同時に、播磨地方に古くから伝わるB級グルメにも注目が集まっています。そこで今回の播磨探訪では、姫路を含め、たつの、加古川、佐用、福崎にいたるまで、それら播磨地方のB級グルメを一同に集めてご紹介いたします。どれもおいしくて、見た目にも楽しく、そして使われているのは珍しいものばかり。ぜひ、参考にしていただき、食べ歩きしてください。

佐用市

高タンパクで鉄分豊富、おいしい&ヘルシー

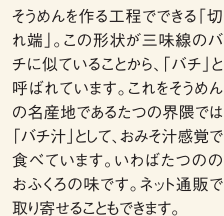
佐用の鹿バーガー

今、山間の地域では鹿が増えて困っているところが多いのだそう。その鹿肉を有効活用しようとする過程で生まれたのが、この「鹿バーガー」。鹿肉は、さっぱりとしてクセは全然感じません。それをハンバーグ状にしてパンズに挟めば完成。抵抗を感じる人も、一度食べるとやみつきになること間違い無しです。



たつののバチ汁

そうめんを作る工程でできる「切れ端」。この形状が三味線のバチに似ていることから、「バチ」と呼ばれています。これをそうめんの名産地であるたつの界隈では「バチ汁」として、おみそ汁感覚で食べています。いわばたつののおふくろの味です。ネット通販で取り寄せることもできます。



たつの市



姫路市

かつて播磨探訪でも取り上げた姫路B級グルメの王様

姫路おでん

もはやB級ならぬ、メジャー級にまでなった感のある「姫路おでん」。出汁の効いたおでんを、そのまま食べず、ショウガ醤油につけて食べます。ショウガの風味でピリリと味が引き締まり、いくらでも美味しく食べられると評判で、その食べ方は今やスタンダードとなりつつあります。



vol.22

おいしい、楽しい、珍しい。

今、播磨地方のB級グルメがアツい!

福崎町

もちむぎ独特の風味が口いっぱい広がる福崎もちむぎ麺

かつては団子の素材として使っていた「もち麦」を麺に使った「もちむぎ麺」。この「もちむぎ麺」、そばのような色しながら、うどんのような食べごたえがあり、しかも嚼めば麦の香ばしさが口に広がる個性派の麺です。さらに、煮込んで食べても、冷たいざる麺として食べてもおいしい優れもの。こちらもネット通販で取り寄せられます。



加古川市

カツレツと濃厚なデミグラスソースの出会い加古川かつめし

戦後間もない頃、加古川の駅前で生まれたという「かつめし」。お皿にもったごはんに、揚げたてのカツ(豚でも牛でもOK)を乗せ、その上から濃厚なデミグラスソースをたっぷりかけます。スプーンで食べたくなるところですが箸で食べるのが王道だとか。自分で作る時は、添え物のカレー風味のキャベツも忘れずに。



姫路えきそば

姫路市

カツオ風味のお出汁に入っているのはラーメンのような細麺。戦後、痛みやすかつたうどんに変えて、かんすい入りの麺を入れてみたところそのミスマッチが評判になったそう。今や姫路駅だけでなく梅田の阪神百貨店でも食べられるように。さらにはカップ麺となってコンビニでも売られています。

